

タイトル	北海学園大学人文学会第10回大会シンポジウム記録 言語と文化からウクライナを理解する
著者	
引用	北海学園大学人文論集(75): 1-3
発行日	2023-08-31

## 言語と文化からウクライナを理解する

### 会長挨拶

### 講演

寺田 吉孝(北海学園大学人文学部日本文化学科 教授)

「ウクライナというところ ― 地理と歴史の復習 ―」

「ウクライナ語正書法史について」

ハターエヴァ・テチャーナ(金沢大学国際機構 専門業務職員)

「ウクライナの木造教会堂建築 ― 歴史的背景及び構成上の特質 ―」

ベイ・リュドミーラ(ハリコフ大学 元准教授)

「ウクライナにおけるロシア語とウクライナ語」

### 総司会

柴田 崇(北海学園大学人文学部英米文化学科 教授)

日時 2023年1月21日(土曜日) 12:30~14:10

会場 北海学園大学7号館D30番教室

主催 北海学園大学人文学会

# 北海学園大学人文学会 第10回大会

---

## 開会の挨拶

○司会 では、定刻になりましたので、北海学園大学人文学会第10回大会を開催したいと思います。

本日、総司会を務めます柴田と申します。よろしくお祈りします。

それでは、人文学会会長から一言御挨拶申し上げます。

○小松氏 こんにちは。人文学部長兼人文学会長の小松かおりと申します。

今日は、昨夜からの大雪の中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

人文学会は、本学の人文学部の教員有志の研究会です。基本的に、メンバーで研究会を実施することが多かったのですが、今回に関しましては、昨年2月24日に始まりましたロシアのウクライナ侵攻で、一体、世界はどうなってしまうのかと多くの方が考えられた、そういう時期の翌年ということもあり、今年3月で定年退職される寺田先生が、ロシア語、ウクライナ語を含む東スラヴ諸語の御専門であるということから、第10回の研究会としまして「言語と文化からウクライナを理解する」というテーマで人文学会を開催し、多くの皆さんに御出席いただきたいと考えて、広く開催をお知らせしました。今日は、ゆっくりお楽しみください。

○司会 それでは、お話しいただくに先立ちまして簡単に趣旨の説明をいたします。

趣旨と申しますか、今回、このテーマを選んで寺田先生にお願いした理由でございますが、まず、もちろん、時宜を得たテーマであるということがありますが、日々、ウクライナ、あるいは、ロシアの報道に接するに当たりまして、私が思うところが二つあったということも理由でございます。

一つ目といたしましては、我々、非常に忘れやすいと。忘却というのがキーワードになろうかと思います。

紛争が起こってから、どこから数えるかということもありますが、侵攻があつてから1年が経とうとしておりますが、ウクライナの報道というのが日常化して、場合によっては他人事のようにないだらうかというふうに思う節があります。

もう一つは、非常に単純化して物事を見がちであるということも自覚せざるを得ません。

報道を見ていて、戦術に関する、軍事的な側面で、この問題を捉えがちではないかと。さらに言うと、善悪の戦いとして、状況を単純化してしまう嫌いがないだらうかということも思うわけでございます。

いわゆるウクライナ戦争に関する付焼刃の知識による思い込みを正していただき、ウクライナ、そして、可能な限りロシアについてもしっかり理解するという機会をいただくために、今回、寺田先生にお願いした次第でございます。

それでは、寺田先生、お願いします。